

アーバンデータチャレンジ東京 2013

実行委員会（第1回）

議事録（案）

日時：平成 25 年 4 月 5 日（金）16:00～18:00

場所：東京大学駒場第2キャンパス（Dw601）

【出席者】（敬称略、順不同）

東京大学：西沢・関本・樫山・仙石・長谷川、日本工営：伊藤、長大：増田、慶応大学：神武、東京都北区：和田、国際航業：山本、朝日航洋：大伴、建設技術研究所：藤津、IIJ：福嶋、濱里、伊藤、東京都財務局：岡田、東京都建設局：増田、JIPDEC：松谷・郡司、新世代 M2M コンソーシアム：八子・川島、インディゴ：高橋、OpenKnowledgeFoundationJapan：東、GeoRepublicJapan：関、公共イノベーション：川島、OpenStreetMapFoundationJapan：飯田、NTT 空間情報：青島、経産省：中井

（Skype での参加：名古屋大学：河口、立命館大学：瀬戸）

（資料）

資料 1：実行委員名簿

資料 2：「アーバンデータチャレンジ東京 2013（仮称）」開催趣意書（案）

資料 3：年間スケジュール（案）

資料 4：論点

資料 5：自治体配布資料（案）

■趣旨説明

○アーバンデータチャレンジ東京 2013（以下、UDC 東京 2013）について趣旨説明を行い、本取り組みの目的が産官学におけるコミュニケーションの活性化やデータ流通に必要な環境等について明らかにすることを説明した。

■役選出

○実行委員長として、東大：関本、幹事長として日本工営：伊藤（敬称略）兩名を選出することで実行委員の承諾を得た。

■年間スケジュール・論点紹介

○UDC 東京 2013 の論点、年間スケジュールについて説明し、当面は 6/10 のキックオフに向けた議論を行なっていく。

■意見交換

○産官学それぞれの立場から活発な意見公開がなされた。以下にその概要を示す。

【UDC 東京 2013 の趣旨】

- ・アーバンという名称としてはいるが、街のデータ、まちづくりに特化するという意図ではなく、UDC 東京 2013 ではデータの種類等を絞ることは考えていない。広く集める予定である。
- ・“東京”としているが、都市圏を表すものであり、対象を東京に限定する意図はない。

【自治体への呼びかけ】

- ・自治体には、気軽に参加してもらえそうな取り組みとしていきたい。
- ・キックオフイベントに、自治体を招待するという方法も考えられるが、自治体の立場からは、参加に関しては個人では判断することが困難であることも想定される。
- ・方法として、自治体総合フェアに UDC 東京 2013 として参加し、取り組みについて紹介することもひとつの手段として考えられる。
- ・実行委員それぞれが関わる自治体には積極的に声をかけていく、それと同時に、潜在層の掘り起こしも必要である。

【オープンデータの取り組みに関する現状と打開策】

- ・データを提供する立場からは、現在でもオープンデータとして様々なデータを提供しているが、どのようなデータを公開すればよいのかがよくわからない。
- ・オープンデータを利用する立場からは、オープンデータが探しづらい、利用する場合のライセンスがわかりづらい、という印象がある。
- ・このような現状を打開するためには、仮説を立てた上で、データを利用した場合のイメージやストーリー（容易に理解できるような噛み砕いたものであることが望ましい）を作成し、少なくとも実行委員内で共有したうえで、呼びかける自治体に説明することが必要ではないか。
- ・そのような呼びかけが、データ提供側のコミュニティ、データ利用側のコミュニティ、さらには、データ提供ーデータ利用間のコミュニケーションの発展につながるのではないか。

【ビジネスへのつなげかた】

- ・UDC 東京 2013 としては、ダイレクトにビジネスにつなげるというところは現時点では主目的とはしておらず、データ提供元の掘り起こし、データ流通に主眼を置いている。
- ・オープンデータ、オープンガバメントについて、海外でも実際には成功事例が存在しないのが現状である。すぐにビジネスにつなげるというのは、UDC 東京 2013 としても難しいのでは、という印象がある。

【UDC 東京 2013 への企業の関わり方】

- ・業務実績の中から、自治体間連携における事例を取り上げることが可能である。
- ・オープンデータを用いた地図づくりといったところに興味がある。
- ・各種ワーキング、研究会にて、UDC 東京 2013 の取り組みを紹介することも考えられる。
- ・仮説を立てた上での UDC 東京 2013 による効果を示すイメージづくりで協力できる可能性がある。

【アイデアソン、ハッカソン】

- ・UDC 東京 2013 でも、アイデアソン、ハッカソンといったところは実施することを視野に入れており、エディットソンについても実施することを考えている。
- ・それに加え、データを使わなくても検討することが可能であり、重要でもある考え方として、“要件定義ソン”を実施するのもよいのではないか。
- ・ハッカソン、エディットソンでは、データの利用条件がわかりづらいといった課題があり、今後解決していく（例えば、指針を示す等）必要がある。

■その他

○次回は5月9日（木）18～20時を予定する。

以上